

医療制度改革の背景

病気やけがの時、保険証を持っていけば、かかった医療費の一部を病院や診療所の窓口で負担するだけで必要な医療を受けることができます。これは、我が国が国民皆保険制度を採っていることによるものです。

現在、この医療保険の財政運営は極めて厳しい状況です。

高齢化に伴う
医療費の増加

- ・ 毎年約1兆円増加

経済の低迷による掛け金
(保険料)の伸び悩み

- ・ 平均月給は対前年度
0.4%の下落(平成12年度)

医療保険は各制度とも大きな赤字

- ・ 政府管掌健康保険(中小企業のサラリーマンなど約3,700万人の方が加入)は、平成14年度には、手持ちの資金(積立金)が底をつくと見込まれています。健康保険組合の運営も年々厳しくなっています。
- ・ 国民健康保険(自営業の方などが加入)は、年間約3,000億円の赤字です。

我が国の高齢化はこれから本格化します。世界に冠たる国民皆保険を守り、子や孫の世代にまで引き継いでいくためには、

「今」改革を実現する必要があります。